

講演の感想

1	日々、授業を通しての一番の悩みはまさに「どうすれば学びのモチベーションを保てるのか」ということです。前川先生のおっしゃっていた「誰かを幸せにするための”学び”」という視点によって、これからの授業に対する生徒のモチベーション向上の着想がわいてきました。
2	30年前と現在の平均勉強時間を比較し、「なぜ30年前の中高生はあんなに勉強していたのか」という問いを投げかけられた時、その考え方があったと気付かされました。なぜ勉強しなければいけないのかと質問された時、確かに「将来のため」が答えでは説得力に欠けると感じていました。今回のお話にあった震災の経験や福島で活躍する方々の経験を聞いて、誰かを支えるためには学んで力を付けなければならない、そのために学ぶんだということに私も気付くことができました。
3	貴重なお話を聞くことができ、有意義な時間であった。私自身も引き続き、学び続け、子どもたちの成長を促していくことができるよう努めていきたい。今日の機会を機に、子どもたちに対する思いは変わらないが、心新たに、教材研究や教科指導等に努めていきたい。子どもたちとの向き合い方を再考し、明日からの学級経営等に生かしていきたい。
4	教育が変わりつつある時代であり、これから変化の激しい時代を生きていく子供につけさせたい力とはなにか、考える機会になりました。また、「誰かの力になるには、力をつけなければならない。」という言葉が印象に残りました。なぜ、学ぶのかを教師が明確にもち、日々の指導にあたるのが大切なのだと改めて感じました。
5	講演での「どうすれば学びのモチベーションを保てるのか？」ということから、子ども達が支えられるだけの存在から、誰かを支えられるように「成長する」ために学ぶというお話をいただいた。自分のためだけではなく、「誰かの力になるためには力をつけなければいけない、学校はそのための場所」という内容はとても心に残り、どのように指導を行っていけばいいのか、自分自身の日々の取り組みを改めて考えたいと思った。
6	今の子どもたちは学習の目標を周囲に向けさせることも、大切な方法であることに気づかせていただき、ありがとうございます。その時代、状況に合った指導方法を目指し、改善していきたいと思います。
7	実際に「なぜ学ぶのか」を考える機会は少ない。そのため、今回の講演は学ぶことの意義について深く考えられた。私自身も自分のために学び続けることはもちろんだが、「今の子ども、これから出会う多くの子ども」たちを笑顔にできるように自身を高め続けていきたい。
8	初めて先生のご講演をお聞きしたが、福島に対する熱い思いを感じることができましたし、福島の子どもたちが持つ大きな可能性をお伝えいただき、改めて福島でがんばりたいという気持ちが高まりました。
9	生徒たちに学ぶ必要性を実感させ、学習意欲の向上につなげる手立てを学ぶことができ、とても良い研修になった。今後、本校でも特別活動の時間で実践し、生徒たちがいつか誰かの力になれるよう指導に努めていきたい。
10	前川先生のお話はとても分かりやすくおもしろかったです。「なぜ学ぶのか」「何をどう学ぶのか」を本当に分かりやすくお話して下さったので、十分に理解することができました。本当に有意義な時間となりました。また機会があれば前川先生のお話を聞いてみたいです。
11	他県から、福島県の復興・発展のために尽力して下さっている方々がいるという事実は、県

	民にとっても支えとなる事実であるように感じる。震災を経験した県で生活しているからこそできることがあるということは、生徒の学習活動への意欲付けにつながる。中学校として取り組めることがあるのではないかと、生徒たちを考え実行していきたいと感じた。
12	灘中・高を退職されてまで福島に来られた前川先生のお話を、ぜひ聴きたいと常々思っていたところに、今回その機会に恵まれ、大変良かった。教員にとって「なぜ学ぶのか」という問いは、いつも子どもたちから突きつけられているものだと思う。「いつか誰かを幸せにするため」というお話にとっても感動した。その一方で、これからの日本は良くなっていくと思っている子どもが3%しかいないことに大きな衝撃を受けた。子どもたちが、未来に対して明るい見通しや希望をもてるように、目の前にいる教員・自分自身が「カッコいい大人」でありたいと、身が引き締まった。
13	福島の「カッコいい大人」について学び、福島のことを考えている大人がたくさんいることがうれしく思いました。子どもたちに自分から福島について考えられるような素地を作っていけるような授業をしていきたいと思えます。
14	福島県への情熱あふれるご講演でした。初任者として、教員として、そして福島に住む一人として、福島県の魅力や伝えていきたいことを再発見して、子どもたちに接することができるようにしていきたいです。
15	『「成長する」とは、支えられるだけの存在から誰かを支える存在になるということ。』、「誰かの力になるためには、力をつけなければならない。」など、自分自身、はっとさせられるお言葉がたくさんありました。学ぶ意味についてや、子どもに向き合う姿勢について考えさせられました。貴重なお話をいただき、ありがとうございました。
16	「いま、これから学ぶ意義」について、我々指導者は生徒達よりも分かっている必要はないということに気づかされた。ぜひ自分のクラスの生徒たちに聞かせたい内容だった。
17	「なぜ学ぶのか？」これまでの時代の変化と、これからの未来をよく理解し、未来を生きる子どもに、今どんな力をつけていかなければならないか、よく理解することができました。生きていく時代で求められる力が変化することを念頭に置き、常に成長していける教師でありたいと強く思いました。
18	「なぜ学ぶのか」というテーマについて、自分のためだけではなく、誰かの役に立つため、誰かを支えるため、まだ会ったことのない誰かを笑顔に、幸せにできる、という話が印象的でした。
19	「なぜ学ぶのか」という単純な問いに対する、一つの正解をいただいた気がします。正解がない問いが多くある現在で自分なりの答えを持って真摯に子どもたちに向き合い続けることが大切だと思いました。
20	「なぜ学ぶのか」を子どもたちに話すのに新しい視点を得ることができた。セミナーなどに参加した高校生の感想なども具体的にうかがえたかったです。
21	「なぜ勉強しなければならないのか」という問いはいつの時代の子供も持っているものだと思いますが、その子供を取り巻く時代背景や社会状況の違いによって、その問いの答えが変わることに驚きました。何のために学ぶのか、自分自身も考えながら、生徒に伝えられるようになりたいと思いました。

22	「なぜ勉強するのか」という理由を改めて考え直すことができた。
23	「君が学ぶと、世界が変わる」、「誰かの力になるためには力をつけなければならない。学校はそのための場所」というお話は、とても印象に残りました。将来に対する期待感が30年で変化していること、子どもではなく子どもを取り巻く社会が変容した結果であるということ踏まえた上で子どもたちと向き合うと、以前と違った見方ができるような気がします。
24	20年後に役に立つ知識を教えることができないと、子どもたちのためにならない。その言葉が、強く印象に残っています。課題解決型の学習が重要であるとされる昨今、最も必要な教育に取り組まれていることがわかりました。誰かを支える力を蓄えるための学びは、社会人になってなお求められ続けるものであると思います。それを志向して教育に取り組むという姿勢は、教員に必要不可欠なものであると感じました。一層自己修養に励み、生徒たちにとってよい先生になりたいと思いました。ありがとうございました。
25	これからの教育のあり方など、色々と考えることができました。これからの時代を生きていける生徒を育成していくという気持ちがさらに強くなりました。
26	これからの指導にいかしていきたいと思います。
27	これからの未来を担う子どもたちが、未来に希望を持つ子どもとなるように、一番近い大人として指し示していきたいと感じました。なぜ学ぶのかを子どもたち自信がよく考え、自分にとって必要感のあるもの、という捉え方ができるよう、関わりを大切にしていきたいです。
28	なぜ勉強するのか？という問いに対して、教師として答えをもっておかなければならないと思っていました。今回、前川先生の講演を聴いて、自分以外の誰かを幸せにするために勉強するというお言葉に改めて生徒に伝えるのはもちろんですが、教師として自分自身も生徒たちを幸せにできるように、日々勉強し、自己研鑽を怠らないようにしなければいけないと思いました。貴重なお話を聴けて良かったです。
29	本校で行っているルーブリック評価を分析してみると、根底に「こうなりたい将来」というものが生徒に薄い事に気づき、疑問に思っていました。講義を聞いて利他的な動機付けを働きかけてみようと考えました。行事や生徒会に一生懸命なのは「思い出作り」という分析も驚く一方、納得できました。課題の多い福島の教育が、一周回って最先端に立っている、という言葉に教員としての熱意が刷新されました。
30	まず、福島の教育に対して、前向きな気持ちを持つことができた。また、前川氏の阪神大震災の経験が福島へと向かう原動力につながったのは、非常に共感できた。最後の「活動における課題」の②・③については、高校でも新学習指導要領にむけての教育課程の編成が進むなかで意識が必要と感じる。特に、専門学科では、「総合的な探究の時間」を「課題研究」に代替することが可能であることもあり、教科横断的な学びをどう実現するか、特色ある学校づくりとも含めて、各学校で取り組む必要性を認識できた。
31	まだ会ったことのない人を幸せにするために学ぶという、学ぶ意義の広がりがとても印象に残りました。これまで、子どもたちには、自分のための学習を伝えていたため、学校に戻ったら、子どもたちに新たな考えとして伝えていきたいと思います。また、自分自身も、子どもたちの成長のために、学びをとめずに日々頑張っていきたいと思いました。

32	めまぐるしく変化する時代を生き抜く子ども達を育てていくためには、正解のない問いを与えていくことが大切となってくる。そして、教師自身も様々なところにアンテナをはり、日々学び続けていく姿勢を持たなければならないと思いました。初任者として、まだまだ学ぶことは多いですが、この講演を生かして、さらに学ぶ意味を、改めて考えていきたいと思いました。
33	以前より前川先生の関わっている活動は知っていましたが、どのような思いを持って福島にいらっしゃって福島の教育に関わっているのかを深く知ることができました。また、福島という地域や子どもたちの持つ可能性の大きさを感ずることができました。なぜ学ぶのかということについて改めて考え直すとともに、福島で教育に携わる者として、福島から教育を変えていくのだという思いを持って日々頑張っていきたいと思いました。
34	何のために学ぶのかという見方や考え方の幅が、自分自身増やすことができました。教員として、子どもたちが明るい未来を想像(創造)できるような支援・指導のできるカッコいい大人を目指していきたいです。ありがとうございました。
35	教師としての継続した学びが必要だと改めてわかった。「福島」だからわかること、「福島」だからできることを意識しながら、20年後の社会の中で子どもたちがたくましく生きていけるよう、今の教育を充実させていきたいと思う。
36	研究発表や講演を聴いて、様々な考え方や、意見がありすごく面白いと感じました。自分自身も教材研究や生徒理解に怠らずに取り組んでいきたいと思えます。
37	言葉に力があり、私たちのやる気が喚起されます。それぞれの主張の論拠・エビデンスがハッキリしていて説得力がありました。更に、ご自身が行動されていることが素晴らしいと思います。前川先生の講演はいつも期待の上をいきます。ありがとうございました。
38	午前中の研究発表ともつながるところですが、児童が必要感を持てる課題があるこの環境は、恵まれているのだなあと感じました。私自身、答えの見えないような課題について考えたことがあまりなかったので、まずは地域や社会に目を向けてみようと思いました。
39	講演を拝聴し、福島の子どものために、より一層、邁進していこうと思いました。
40	今後の教師としての目指すべき道が分かりました。ありがとうございました。
41	子どもたちの可能性を伸ばしていきたいと思いました。
42	子供たちから「なぜ学ぶのか。」と聞かれたことがあります。その時、自分のためだとしか答えられませんでした。しかし、今回の公演を聴いて、どこか心の中でもやもやしていたことがすっきりしました。子供たちにも、今回の話をしてあげようと思っています。
43	私自身、近年、生徒達の家庭学習の不十分な生徒が増えたように感じており、改善しようと工夫してきました。学習しない理由が何であるかをよく考えずに指導に当たっていたので、主体的に学習することを促すのではなく、強制的に課題を提出させていただきただけの状態だったと思います。社会の背景を踏まえて、最近の生徒達が学習しなくなった理由についてお話しいただき、はっとさせられました。また、学習するモチベーションを保つ方法として、他者のために努力しなければならないという考え方にとても共感いたしました。大変貴重なお話を聞くことができたと思っております。本当にありがとうございました。
44	視点のもたれ方など、目から鱗でした。誰かのために学ぶことの意義を再確認できました。
45	時代背景の変化や先行きが不透明な時代の中における、生徒の学習に対する動機付けとして、

	前川先生の「成長するとは誰かを支える存在になること」「君が学べば世界が変わる」という言葉に大変感銘を受けました。このことは、すべての大人にも当てはまることであり、私自身も学び続け、生徒に還元できるよう学び続けていきたいと強く感じました。
46	震災を体験して力がないと誰かを救うことはできないという言葉から、自分自身や子ども達にも学ぶ力をつけていかななくてはならないと感じました。
47	自分がなぜ教員を志したのか、を改めて考えさせられました。学び続けることは、とても大切だと思いました。初任者として一年が過ぎようとしています、この時期にこの講演が聞けてよかったです。
48	自分のために学ぶだけでなく、誰かの役に立つために学ぶということを、今まで中々生徒に伝えていなかったなど、自分の考えを見直す必要を感じさせるお話でした。ご講演ありがとうございました。
49	社会環境の変化が、生徒が主体的に勉強することに影響していることを、具体例を交えながら聞くことができ、腑に落ちた。今後生徒が、学習に取り組む際の動機づけに活かしたいと思った。
50	初任の私にとって、なぜ学ぶのか・福島で学ぶ意義について学ぶことができました。本当にありがとうございました。
51	初任者研修として参加しました。とても勉強になりました。ありがとうございました。
52	新しい教育の考え方が見えたと思います。子供達へ、今後どのように将来を考えていくのか伝えるためにより良い学びになったと思います。
53	生徒が何のために学ぶのか？バブル直後からの日本社会の変化とともにその意味合いが変化してきている事がとても興味深かったです。生徒が自ら学ぶきっかけ作りに役立てたいと思いました。
54	生徒になんのために勉強させるのか、今回の講演で自分の中でも明確にすることができました。ありがとうございました。
55	前川先生のお話を生で聞くことができ、大変貴重でした。
56	前川先生の講演を聴くことができる機会をいただけて良かったです。「なぜ学ぶのか」について、自分自身もあらためて考える時間になりました。目の前の子、これから出会う誰かのために学び続ける人でありたい、またそれを子どもたちに伝えられる人でありたいと思いました。
57	前川直哉先生のお話を聞いて、AI 技術の向上と従来の教育の差異について考えることができました。また、今後福島県で特化できる分野や、その根本的な考え方を聞いて、福島県出身者として嬉しく思いました。ぜひ今後の教育実践にいかしていきたいと思います。
58	大変感動いたしました。子どもが自信を持って学びたいと思えるような、カッコいい大人であり、見本でありたいと思います。今後の教育活動に真摯に向き合い、応えていきたいと思いました。
59	灘中学・高校の生徒と福島の中学・高校の生徒はどのように学んでいけばよいのかや、共通点・共有すべきこと・課題について、考えを深めることができました。先生だからこそご提言できる内容も大きいと感じました。とても有意義な講演会でした。
60	日頃から子どもに、何のために学ぶのか伝えることに難しさを感じていました。子ども達と

	近い感覚であるとはいえ、教える立場になった今は、その感覚は分からなくなっている部分も多くあります。今を生きる子ども達にとっての学ぶことがどのような意味を持つのか、深く考えるきっかけになりました。また、福島県で学ぶことの強みも知ることができました。今後は、その事を強く意識した授業展開を行っていきたいです。
61	白河実業高校の事例が紹介されていましたが、すごく良い取り組みをしているのに、同じ県南に住みながら全くわかっていなくて、恥ずかしく思いました。地域のことについて知ろうとする自分のアンテナをもっと高くしていこうと思います。福島に生まれたことを誇りに思える生徒を育てたいと思いました。
62	福島だからある課題や、それを解決しようとする学び方の価値を習うことができた。また、福島県の農業教員として、知的・物的資源のこれからの活用と価値の創造を意識して楽しもうと思った。そして、「好きだから」が理由で動く人は魅力的だと感じた。私たちの行動のきっかけはもっとシンプルで、わかりやすいものでいいと思うことができた。
63	福島だからこそできる教育のありかたについて、考える機会をいただけたように思います。これから、教員として福島県の将来を担う子どもたちのために頑張っていきたいと思える素晴らしいご講演をいただく事ができました。ありがとうございました。
64	福島県だからこそできる教育の仕方だったり、福島県から広めていける教育があったりすること、勉強になりました。
65	福島県の教育に携わっていることに責任を感じた。配信での講話だったが、前川先生の熱い思いが感じられた。
66	福島県の教育的課題を取り上げるというより、福島県には頑張る生徒がたくさんいるという視点でとらえることができ、生徒の資質・能力の育成や高い志を持たせた指導を大切にしたいと思えるようになりました。素直な生徒が多いという前川先生の視点から振り返ってみると、疑問を抱く、抱かせるような授業を進めていくうえで、課題解決型の授業の必要性を感じました。少しずつ仕事に活かしていきたいと思えます。
67	福島県の子どものよさがわかり必要なことが少しだけわかった。カッコイイ大人の一人になれるような指導ができるように、研修を積みたい。
68	日々、授業を通しての一番の悩みはまさに「どうすれば学びのモチベーションを保てるのか」ということです。前川先生のおっしゃっていた「誰かを幸せにするための”学び”」という視点によって、これからの授業に対する生徒のモチベーション向上の着想がわいてきました。